七二会地区

第26号

住民自治協議会だより

令和２年７月１日号　発行：七二会地区住民自治協議会

会　長
渡邉　貴則
（大安寺区長）

七二会地区では、本年４月１日現在、世帯数708、人口1,455人まで減少する一方、65歳以上の高齢化率は51.7％でいわゆる「限界集落」状況に達し、さらに４つの区では高齢化率が60％を超える状況となっています。

地区からの役員の担い手不足が起こり、道路整備や草刈り、健康福祉活動、公民館活動等々の住民サービスが継続できるのか、住民自治協議会の活動を持続的安定的に維持していくには一体どうすればよいのかという課題に直面しています。

ところで、今年度は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大という想定外の事態が発生し、命と健康を守るためには社会経済活動を本当に必要なもの、本質的基盤的なものに特化せざるを得なくなりました。

こうした状況をふまえつつ、本文ｐ４～５に掲載しました発足から１０年を経た住民自治協議会の現状と課題について、全部会長に組織、事業の見直しをお願いしました。七二会地域が持続的に安定した安らぎの里であり続けるよう、昨年度に引き続き見直しを進めてまいります。

住民の皆様のご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

令和２年度
役員の皆さんです

よろしく
お願いします

副 会 長
総務・安全・防災部会長
古間区長　**北嶌　正孝**

副 会 長
健康福祉推進員会
会長　**酒井　厚子**

副 会 長
地域公民館連絡委員会
委員長　**風間　直幸**

会　　計
瀬脇区長
宮澤　保弘

監　　事
郷土歴史資料館管理運営委員会
委員長　**倉田　　健**

監　　事
七二会農家民泊の会
会長　**吉原　　正**

健康・福祉部会長
地域福祉推進委員会
委員長　**青木美智子**

地域振興・環境部会長
地域活性化委員会
会長　**北島　和彦**

教育・文化部会長
スポーツ推進委員会
会長　**宮澤　俊弘**

坪根区長
水口　敏弘

倉並区長
石坂　孝男

五十平区長
太田多実雄

平出区長
太田　吉明

上橋詰区長
山田　正明

岩草区長
石坂　秀夫

笹平区長
大澤　正隆

安心できる家づくり　総合建設業
株式会社 酒井工務店
長野市七二会乙2572　TEL(026)229－2139
〒381－3164　FAX(026)229－2280

SHINA SAKA
信濃酒井建設株式会社
代表取締役　酒　井　昭
本社　長野市篠ノ井山布施8470
TEL026-229-2418 FAX026-229-2560

令和２年度　各部会の主な事業

総務・安全・防災部会

①県・市土木関係事業要望活動の実施
②自主防災活動取組の推進
③地域交通システム（新じんば号）運行の実施
④七二会支所庁舎早期建設への取組
⑤公害及び環境美化の推進

健康・福祉部会

①七二会地区支え合い活動計画の推進
②七二会たすけあい事業の推進
③かがやき健康サロン（生き生き通いの場事業）・わくわく健康塾の開催
④お茶のみサロンの開催
⑤福祉移送（あいちゃん号）の運行
⑥高齢・障害の方、児童の見守り活動の実施

地域振興・環境部会

①ふれあい市（夏・冬）の開催
②陣場平山トレッキング大会実施への協力
③視察研修会の開催
④プロジェクトチーム各テーマ分科会活動の実施
⑤農家民泊事業・花いっぱいの会活動への支援

教育・文化部会

①人権教育の促進
②ソフトバレー・お盆野球・市民運動会や文化芸能祭などの実施
③青少年健全育成活動取組の推進
④郷土歴史資料館の常設
⑤風穴等歴史的遺産保存修復及び広報活動の実施

令和２年度　収入支出予算概要

収入予算額	12,867,000円
支出予算額	12,867,000円
差引残高	0円

収入の部　（単位：円）

項目	予算額
会費（609世帯）	1,157,100
地区負担金	500,000
地域いきいき運営交付金	5,641,000
補助金	3,356,000
配分金	224,817
雑収入	349,029
繰入金	0
繰越金	1,639,054

支出の部　（単位：円）

項目	予算額
総務費	4,330,000
区長会費	560,000
防犯協会費	64,000
交通安全推進費	80,000
地域福祉推進委員会費	4,097,000
健康福祉推進員会費	240,000
トレッキング実行委員会費	220,000
活性化委員会費	150,000
有害鳥獣対策委員会費	200,000
人権教育促進委員会費	218,000
地域公民館連絡委員会費	562,000
青少年健全育成委員会費	437,000
郷土歴史資料館運営委員会費	175,000
配分・委託料・補助金	705,480
繰出金	146,000
予備費	682,520

令和元年度　収入支出決算概要

収入決算額	12,504,293円
支出決算額	10,865,239円
差引残高	1,639,054円

収入の部　（単位：円）

項目	決算額
会費（604世帯）	1,147,600
地区負担金	500,000
地域いきいき運営交付金	5,656,000
補助金	3,172,608
配分金	226,767
雑収入	459,822
繰入金	0
繰越金	1,341,496

支出の部　（単位：円）

項目	決算額
総務費	3,889,078
区長会費	237,555
防犯協会費	35,860
交通安全推進費	70,000
地域福祉推進委員会費	3,642,386
健康福祉推進員会費	214,321
トレッキング実行委員会費	82,252
活性化委員会費	150,000
有害鳥獣対策委員会費	200,000
人権教育促進委員会費	157,463
地域公民館連絡委員会費	534,362
青少年健全育成委員会費	366,860
郷土歴史資料館運営委員会費	117,182
配分・委託料・補助金	701,880
繰出金	466,040
予備費	0

令和元年度　特別会計収入支出決算概要

やまざと支援交付金事業

収入決算額　1,800,149
支出決算額　1,800,000
差引残額　149（翌年度へ繰越）

（単位：円）

	項目	決算額	摘要
収入の部	補助金	1,800,000	長野市より
	雑収入	9	貯金利息等
	繰越金	140	前年度より繰越金
	合計	1,800,149	

（単位：円）

	項目	決算額	摘要
支出の部	事業費	600,000	支障木伐採、ニワウルシ駆除、除雪
	雇用経費	1,200,000	地域活性化推進員雇用経費
	合計	1,800,000	

七二会たすけあい事業

収入決算額　114,014
支出決算額　68,790
差引残額　45,224（翌年度へ繰越）

（単位：円）

	項目	決算額	摘要
収入の部	繰入金	10,000	住自協より
	登録料	1,500	1人300円　5名
	利用料金	64,500	1時間1,000円　当月清算
	雑収入	0	貯金利息等
	繰越金	38,014	前年度より繰越金
	合計	114,014	

（単位：円）

	項目	決算額	摘要
支出の部	協力会員費用弁償	67,500	1時間1,000円　翌月清算
	保険料	1,290	福祉サービス総合補償
	事務費	0	事務用品費・通信費等
	雑費	0	草刈り用殺虫剤
	合計	68,790	

七二会かがやき健康サロン事業

収入決算額　551,362
支出決算額　488,318
差引残額　63,044（翌年度へ繰越）

（単位：円）

	項目	決算額	摘要
収入の部	繰入金	30,000	住自協より
	補助金	98,000	長野市介護予防生きいき通いの場事業補助金
	会費	366,600	@600円×611人
	雑収入	0	貯金利息等
	繰越金	56,762	前年度より繰越金
	合計	551,362	

（単位：円）

	項目	決算額	摘要
支出の部	保険料	4,856	イベント保険
	通信費	75,300	通知はがき等
	事務費	10,843	コピー用紙等
	需用費	12,249	事業実施消耗品等
	使用料及び賃借料	2,029	
	講師等謝金	25,520	13名分
	食糧費	357,521	参加者食糧費(補助対象外)
	備品費	0	
	予備費	0	
	合計	488,318	

安心・安全な活動公募配分事業

収入決算額　246,240
支出決算額　246,240
差引残額　0

（単位：円）

	項目	決算額	摘要
収入の部	共同募金配分金	200,000	
	負担金	46,240	住自協負担金
	合計	246,240	

（単位：円）

	項目	決算額	摘要
支出の部	事業費	246,240	冷蔵庫保管用医療情報キット
	合計	246,240	

コミュニティ助成事業

収入決算額　2,008,800
支出決算額　2,008,800
差引残額　0

（単位：円）

	項目	決算額	摘要
収入の部	コミュニティ助成金	2,000,000	
	負担金	8,800	住自協負担金
	合計	2,008,800	

（単位：円）

	項目	決算額	摘要
支出の部	事業費	2,008,800	初期消火用具整備費
	合計	2,008,800	

ながのまちづくり活動補助金事業

収入決算額　650,179
支出決算額　650,000
差引残額　179

（単位：円）

	項目	決算額	摘要
収入の部	補助金	390,000	
	負担金	260,000	住自協負担金
	繰越金	179	前年度より繰越金
	合計	650,179	

（単位：円）

	項目	決算額	摘要
支出の部	事業費	650,000	風穴案内板整備
	合計	650,000	

七二会地区の現状と課題について
～将来にわたり持続的に暮らせる地域のために～

1　七二会地区の人口の推移

図１　七二会地区の人口の推移（各年とも４月１日現在の人口）

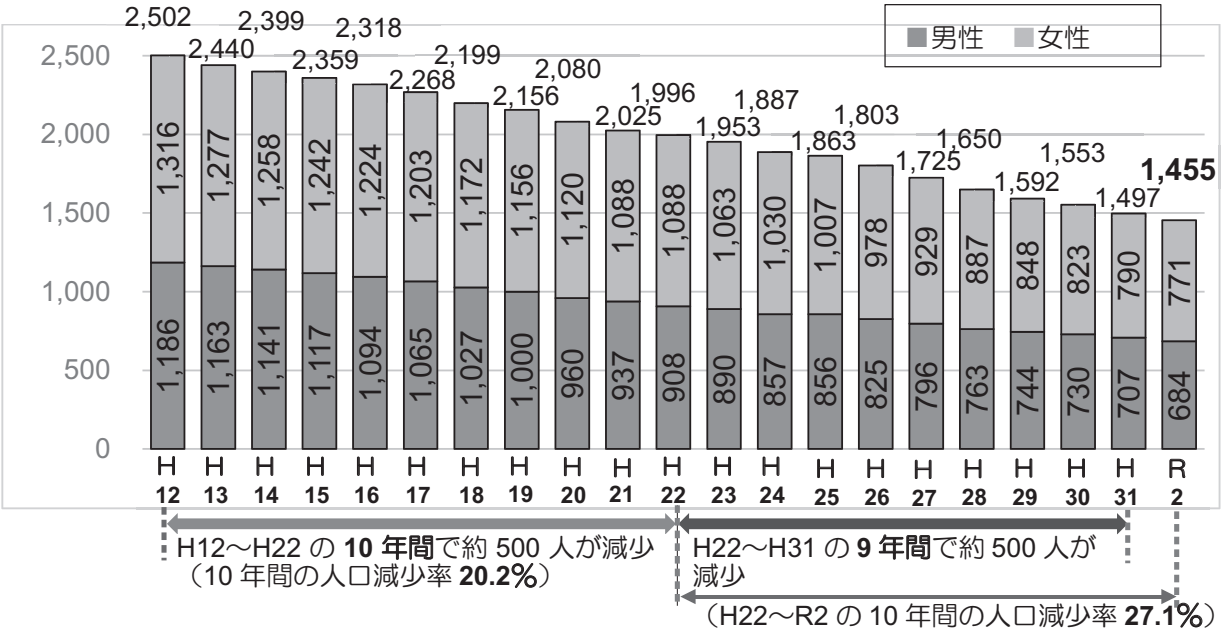

表1　七二会地区内の区毎の世帯数及び人口（令和２年４月１日現在）

		七二会	瀬脇	坪根	倉並	五十平	古間	平出	上橋詰	岩草	大安寺	笹平
世帯数（戸）		**708**	**205**	**29**	**36**	**43**	**117**	**57**	**35**	**58**	**45**	**83**
人口　（人）		**1,455**	**427**	**47**	**82**	**92**	**247**	**123**	**66**	**92**	**106**	**173**
年齢別内訳	40～49歳	132	43	2	3	10	34	3	8	9	12	8
	50～59歳	171	48	5	10	12	30	19	12	8	6	21
	60～69歳	275	81	9	18	19	51	24	6	14	25	28
	70～79歳	273	75	8	11	17	63	17	15	19	12	36
	80歳以上	310	89	18	21	16	17	28	20	29	19	53
60歳以上の割合(%)		59.0	57.4	74.5	61.0	56.5	53.0	56.1	62.1	67.4	52.8	67.6
80歳以上の割合(%)		21.3	20.8	**38.3**	25.6	17.4	6.9	22.8	**30.3**	**31.5**	17.9	**30.6**
1世帯あたりの世帯員数		2.06	2.08	**1.62**	2.28	2.14	2.11	2.16	**1.89**	**1.59**	2.36	**2.08**
高齢化率（65歳以上）		51.7	49.2	**66.0**	54.9	51.1	43.7	49.6	**62.1**	**62.0**	43.4	**61.3**

14 歳以下の人口 83 人 5.7%

※世帯数は住民票毎にカウントしたもの。また、人口及び世帯数には地区にある施設入所者も含む。

人口から見た七二会地区の現状

・七二会地区の人口は20年前に比べ1,000人以上減少し、現在は1,500人を割り人口減少が進んでいる。高齢化率（65歳以上の割合）は50%を超え14歳以下の人口は83人と少子・高齢化が著しい。

・特に坪根、上橋詰、岩草、笹平の各区は高齢化率（65歳以上）が60%を超え、80歳以上の割合も30%を超えている。更に、世帯員数が２人以下と高齢者の独居世帯や高齢者のみの世帯が多いと想定される。

・現在、区の役員の担い手の年齢層である60代の人口が、今後、著しく減少する（50代／60代比約60%、40代は60代の半分以下）

◆今後、担い手不足による区機能の維持が厳しくなる区が生じる！
◆担い手不足と世帯数の減少は、住民自治協議会はじめ自治会の活動にも影響を与える！

2　七二会の在り方

これからも地区の人口減少・少子高齢化・世帯数の減少は避けられないと考えられ、下記に掲げる目標を実現するため、住民自治協議会や区、支所とが連携し、地域の仕組みを見直していく必要があります。

◆七二会地区の目指す方向

地域の人口が縮小しても、「生活の質」を確保しながら、「地区で住み続けることができる機能」の維持を図り、「将来にわたり持続的に暮らせる地域～七二会～」の実現を目指す。

3　住民自治協議会の見直し

住民自治協議会は平成20年2月の設立以降大きな組織等の見直しを行っておらず、今後、 役員の選出が難しくなる区が生じる恐れがあること、世帯数の減少に伴い財源の縮小も想定されるなど住自協の運営が厳しくなると考えられます。

こうしたことから、今、積極的に組織や事業を見直し、適正な規模の地域組織に改革すること、住民が将来にわたり安心して生活するために必要な事業に集約を図ることが肝要と考えます。

そこで、今年度から2年をかけて、下記の観点で組織と事業の見直しを進めていきます。

(1)　組織の見直し（部会やそこに属する組織についても）

①　組織の目的とニーズ（今後の必要性）を確認し、組織の目的を既に達成している場合やニーズが少ないと判断した場合は、組織の解散を検討
②　同じような活動を行っている他の組織との統合を検討
③　区等から選出を止め、有志の組織（活動に関わりたい人）への変更を検討
④　イベント等を開催する組織については、次の方法で必要な人員を確保することで、区等からの選出人数の削減や、依頼する組織数の削減を検討
・イベント実施時に各区への派遣依頼
・他の組織と共催（NPO等との共催）
・地区外から開催趣旨に共感し関わる人を求める（NPO等の協力）
⑤　会議の見直し（開催回数の削減や、会議参加者の絞り込み、伝達事項のみの場合は、会議を開催せず文書の配布とする等）

(2)　事業（活動）の見直し

「今まで実施していた事業は何のために行うのか」「今の社会にあった取り組みなのか」検証・振り返りを行う。長年実施する中で、社会背景や地域の状況も変化しているため、当初の目的と現在の事業内容にズレが生じたり、ニーズが変わっている可能性もあり、次により事業（活動）毎に検討を進めていきます。

①　事業毎に、当初の目的（何のために行うのか）を確認する。
②　事業の実施状況や成果（参加状況や目的を達成したか）、関わる（運営している）方々の負担感、今後のニーズ等を把握する。
③　①、②について検討し、今後も事業を、改善し継続（他の方法・手法の見直し）する、廃止する、別の組織にゆだねる（目的を考えると他の組織で実施した方が良い）など判断する。
④　他の組織が実施しているイベント等と、参加者の顔触れが同じイベント（事業）であれば、同日の開催や、隔年による開催等の見直しを行う。

七二会地区住民自治協議会　会長　渡邉　貴則

※人口のデータは七二会支所から提供

令和２年度　七二会地区住民自治協議会　役員　評議委員

●役　員

役　職		氏　名	所属団体・役職
会　長		渡邉貴則	区長会　会長
副会長		北嶌正孝	区長会　副会長
		酒井厚子	健康福祉推進員会　会長
		風間直幸	地域公民館連絡委員会　委員長
会　計		宮澤保弘	区長会　会計
監　事		倉田　健	郷土歴史資料館管理運営委員会　委員長
		吉原　正	七二会農家民泊の会　会長
区　長		全　区　長	
部会長	総務安全防災部会	北嶌正孝	区長会　副会長
	健康福祉部会	青木美智子	地域福祉推進委員会　委員長
	地域振興環境部会	北島和彦	地域活性化委員会　会長
	教育文化部会	宮澤俊弘	スポーツ推進委員会　会長

●顧問　相談役

役　職	氏　名	所属団体等
顧　問	山本晴信	前市議会議員
	小林紀美子	元市議会議員
相談役	北島秀一	H30住自協会長

〈七二会地区老人クラブ連合会が解散〉

昭和37年11月発足した「七二会老連」が56年の活動に幕を下ろした。

元年６月24日七二会合同庁舎に三役、５単位クラブ代表が集まり解散式が行われた。

早川会長あいさつ

「老連50周年記念誌も発行から６年、次の時代へ元号が改まった年にこのような決断をすることは誠に残念。会員の確保、単位クラブの活動状況からして連合会を維持すること如何ともしがたく、苦渋の選択をせざるを得なかった…」

宮澤住自協会長（当時）あいさつ

「老連活動は幕でも後輩の叱咤激励も含め、地域活動の主役として活動の継続をお願いします」

75才以上が３割に近づかんとしている我が地域、労働寿命の延長さえいわれる時代。
地域への貢献寿命をうんと伸ばしまだまだ踏ん張ってもらわなければ七二会は保たない。

編集後記

住自協発足から10年を経て、人口の推移を見極め事業の見直しを新会長のもとに進めることになりました。七二会老連が発足した昭和37年はこれも偶然か、今年11月に幕を下ろす有線放送が始まった年です。
事業の見直しはこの先七二会が在り続ける必然。

●評議委員

氏　名	所属団体・役職
宮澤保弘	瀬脇　区長
水口敏弘	坪根　区長
石坂孝男	倉並　区長
太田多実雄	五十平　区長
北嶌正孝	古間　区長
太田吉明	平出　区長
山田正明	上橋詰　区長
石坂秀夫	岩草　区長
渡邉貴則	大安寺　区長
大澤正隆	笹平　区長
林　忠芳	交通安全協会七二会支部　支部長
石坂美保	白バラ会　会長
宮澤正和	消防団七二会分団　分団長
北嶌正孝	自主防災組織連絡協議会　会長
渡邉貴則	防犯協会　会長
北島里美	日赤奉仕団七二会分団　委員長
青木美智子	地域福祉推進委員会　委員長
酒井厚子	健康福祉推進員会　会長
春日正三	身体障害者福祉協会　会長
北島和彦	地域活性化委員会　会長
渡邉貴則	陣場平山トレッキング委員会　委員長
吉原　正	七二会農家民泊の会　会長
青木美智子	七二会花いっぱいの会　会長
宮澤俊弘	有害鳥獣対策委員会　会長
下条　至	特別植林組合　管理者
山本浩一	商工会七二会支部　支部長
林　忠芳	農家組合　組合長会長
宮澤秀樹	ＪＡながの西部店　店長
風間直幸	地域公民館連絡委員会　委員長
北島和彦	人権教育促進委員会　委員長
山崎恵美	青少年健全育成委員会　委員長
倉田　健	郷土歴史資料館管理運営委員会　委員長
石坂みどり	小・中学校ＰＴＡ　会長
北島和彦	文化芸術団体連絡委員会　委員長
宮澤俊弘	スポーツ推進委員会　会長
下条　至	七二会森林整備クラブ　代表
石坂　栄	保護司
北島和彦	男女共同参画推進員
小池正人	人権擁護委員
北島和彦	人権教育指導員
風間直幸	人権教育指導員
石坂栄四郎	警察ボランティア